

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 5 月 20 日 (2021.5.20)

【公開番号】特開 2021-52762 (P2021-52762A)

【公開日】令和 3 年 4 月 8 日 (2021.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2021-017

【出願番号】特願 2020-183046 (P2020-183046)

【国際特許分類】

A 2 4 F 40/465 (2020.01)

H 0 5 B 6/10 (2006.01)

【 F I 】

A 2 4 F 40/465

H 0 5 B 6/10 3 3 1

H 0 5 B 6/10 3 7 1

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 24 日 (2021.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 0 】

この実施形態では、加熱素子 1 3 0 は、加熱領域 1 1 3 の第 2 の端部 1 1 2 から加熱領域 1 1 3 内に突出する。より詳細には、この実施形態では、端部部材 1 4 0 は、開口 1 1 4 から離れた本体 1 1 0 の端部に設けられる。この実施形態では、端部部材 1 4 0 は、摩擦又は接着剤などによって本体 1 1 0 の端部に取り付けられたプラグを含む。しかしながら、他の実施形態では、端部部材 1 4 0 は、本体 1 1 0 とは異なる形態を採ることができる、又は一体とすることができる。この実施形態では、端部部材 1 4 0 は、加熱領域 1 1 3 の第 2 の端部 1 1 2 を画定する。さらに、この実施形態では、加熱素子 1 3 0 は、端部部材 1 4 0 に取り付けられ、端部部材 1 4 0 から加熱領域 1 1 3 内に延在している。この実施形態では、加熱素子 1 3 0 の一部分は端部部材 1 4 0 内にあり、それは、加熱素子 1 3 0 と端部部材 1 4 0 との間をより頑強に接続する助けとなり得る。その代わりに、いくつかの他の実施形態では、加熱素子 1 3 0 は、加熱領域 1 1 3 に面する端部部材 1 4 0 の面に当接してその面から延在することができる。